

大宅町長の公務百景 (No. 93)

※町長の公務を報告するコーナーです。



3月	会議・行事名
1	町都市計画審議会
2	町議会全員協議会
3	ようこそ町長室へ(南郷地域)
4	さいたま市役所訪問
7	南会津地方統計協会会長表彰伝達式
8	南会津地方町村会只見高校野球部激励/東北電力ネットワーク(株) 田島電力センター来庁/課長会議
9	関東森林管理局長来庁/なかやクリニック来庁
10	きとね建設状況視察/東北地整備局河川部長来庁
11	第1回町議会定例会(初日)
12	田島保育園卒園式

今月号の目次

P 2 : 令和4年度南会津町施政方針・主要事業

P 8 : 令和4年度当初予算概要

P 10 : 令和4年度町職員配置表

P 12 : 役場からのお知らせ
南会津町教育委員会表彰 など(7件)

P 16 : まちの話題
とっておきの1枚が、ここに! など(12件)

P 20 : 学び舎スケッチ
町内各学校の日常をご紹介、図書館へ行こう!

P 24 : 健康通信
すまいるだより、日曜当番医、健康レシピ、むし歯ゼロのお友だち

P 27 : 暮らしの情報
行政相談会をご活用ください など(4件)

P 28 : 文芸・戸籍など
伊勢道中記、文芸ごよみ、大宅町長の公務百景、戸籍の窓口、今月号の目次、編集後記

P 30 : Only One
五十嵐孝太さん、今月号の表紙、4月の納税ごよみ

編集後記

◆総務課へ異動となりました。広報担当者になった当初は不安でいっぱいでしたが、まだまだ知らなかった町の事を勉強させてもらった2年間でした。

◆楽しく読みやすい広報紙を目標に、来月から馬場君へバトンタッチしますので、これからも広報紙をよろしく願います。

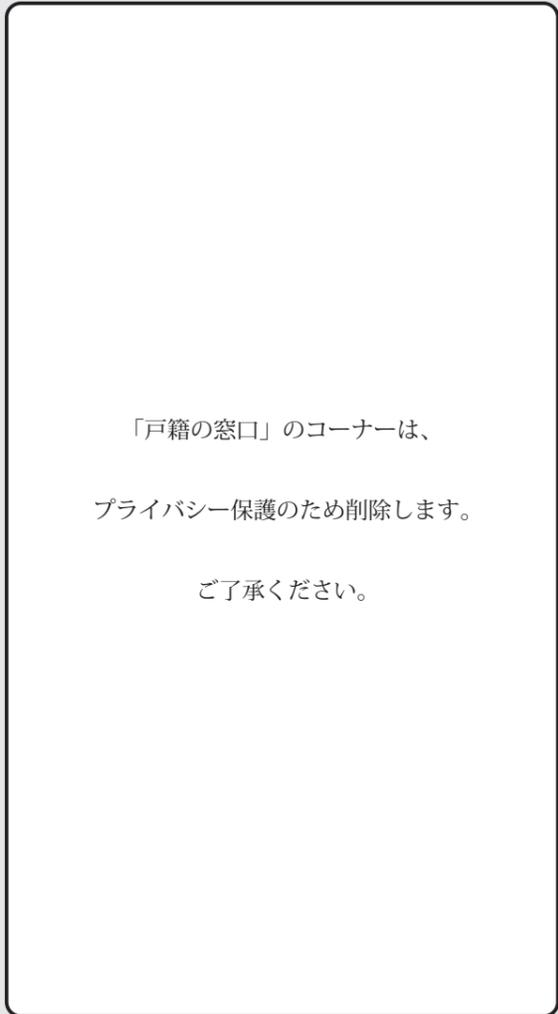
ご意見・ご要望はコチラまで

総合政策課 津吹 雅之 kouhou@minamiaizu.org

14	南会津警察署来庁/ふくしま市町村支援機構来庁
16	第1回町議会定例会(2日目)
17	第1回町議会定例会(3日目)
18	第1回町議会定例会(4日目)
22	町ホストタウン実行委員会
23	台東区副区長来庁/野岩鉄道(株) 取締役会
24	南会津会理事会/南会津地方広域市町村圏組合管理者会/自衛隊入隊予定者激励会/湯田保典氏交通安全啓発品寄贈
25	南郷保育所・伊南保育所満了式/星佐多男氏緑白綬有功章受章報告/南会津建設事務所来庁
28	除雪隊終業式/南会津地方振興局来庁/町防災会議/県立高校改革室来庁
29	日本太鼓ジュニアコンクール特別賞受賞報告/会津鉄道(株) 取締役会
30	消防車両納車式/全国治水砂防協会理事会
31	職員辞令交付式・退職職員感謝状贈呈式

戸籍の窓口 (2月24日~3月25日)

※上記期間の届け出のうち、承諾のあったものを掲載しています。



「戸籍の窓口」のコーナーは、
プライバシー保護のため削除します。
ご了承ください。

歴史シリーズ
伊勢道中記
第11話



【写真⑤】

富士浅間神社(中央上)、富士川の渡し(右下)、久能山東照宮(左)の様子が、丁寧に描かれている

旅の22日目となる3月6日に、一行は前田村(静岡県富士吉田市)を出立。蒲原宿から富士川の渡しを越え、由比宿を通過。興津川に架かる浦安橋を渡りました。

道中記には、富士川の渡し船の料金が1銭3厘(約130円)、浦安橋の通行料金が3厘(約30円)であったと記されています。この日一行は、徳川家康を祀る久能山

東照宮の近くに宿泊しました。

翌3月7日は、午前5時に宿を出立し、久能山から3里(約12km)離れた静岡へ。駿府城を余すことなく見物した後、富士浅間神社も参詣。さらには、安倍川餅の語源にもなった安倍川に架かる安水橋(現在は安倍川橋:長さ約500m)を渡り、鞠子宿(丸子宿とも書く)へと入りました。

鞠子宿では、名物のとろろ汁を食べたようで「とろろ旨し、腹をさすりても備式銭五厘」との記載が。腹いっぱいにとろろ汁を食べても、値段は約250円と安かったという意味でしょうか。

岡部宿や藤枝宿を通り、この日は島田宿へ宿泊した一行。文中に登場した地域は、すべて現在の静岡県に位置します。

文芸ごよみ

おくやま吟社(田島地域)

幼な児の頬の産毛や風光る
啓蟄や隣家に初の孫生まる
小雨中歩いて春を惜みけり

星 昂明
五十嵐 孤庵
湯田 畊道

伊南銀杏俳句会(伊南地域)

ご朱印を受けて撫牛雪払ふ
とめどなく雪降るさ中俳師逝く
コロナ禍を知らぬ笑顔の雛飾る

馬場 忠子
馬場 ミエ
馬場 良

南郷俳句会(南郷地域)

卒業の色紙の文字や十余年
只見高雪かきわけて甲子園
籠り居の春や相次ぐ師の訃報

平野 恵美子
酒井 栄子
渡部 華子

鳴山短歌会

遠き日の朝に声だし木ペラ振り
氷柱を落とす父の懐かし
孫子来る時を見ながら大鍋を
出して得意のポトフを煮込む
満タンの灯油の赤いポリ容器
去年より重く「老い」を知らさる

梅宮 トキ子(今生)
梅宮 直子(今生)
大竹 幸一(下塩江)